

形ではなく「中身」

校 長 武井 正明

菊池寛の「形」という作品がある。

槍の達人で、身につける陣羽織と兜を見ただけで、敵が恐れ怯える中村新兵衛という武者がいた。その羽織と兜は、戦場の敵に対する脅威であり、味方にとっては信頼の証であった。ある日、初陣に出る若武者から彼の陣羽織と兜を貸すよう頼まれる。新兵衛は、その依頼を快く受けた。翌日の戦で、新兵衛から借りた陣羽織と兜を身につけた若武者は、大手柄を立てる。一方、別の武装で戦いに臨んだ新兵衛は違和感をもっていた。いつもと違う「形」の新兵衛に対して、敵は怖気づかず、存分に力を発揮してきたのだ。新兵衛の脳裏に、羽織と兜を貸した後悔がかすめた瞬間、敵の槍が彼の腹を貫いていた…。

昨日は一年ぶりに井上尚弥がダウンを喫した。

しかし、私は昨年見た時と違った気持ちだった。

きっと井上はこれも想定内。カウント8までゆっくり呼吸を整えて、きっと挽回してくるはずだ。

果たしてその通り。石を積み上げるように確実に優勢に試合を転じ、最後はきっちりとKOで勝利をものにした。本当の強さとはベルトじゃないのだ。自分自身をごまかさない謙虚さと、圧倒的な練習量こそが大きな地盤なのだろうと改めて感服する。

5月4日三条燕総合グラウンド。3月全国大会倉敷以来観る吉中ナインの試合だ。

試合前の「とにかく東北に勝たなければ」と口々に言う彼らの顔に慢心は全く感じなかった。過去の県大会優勝という名誉は何の保険にもならない。これからの厳しい戦いには却って邪魔になるということを、指導者も選手も心得ているようだ。

そして、大事な初戦。強豪東北中戦が始まった。

立ち上がりは三者三振上々のスタート。しかし2回に走者3塁のピンチを迎える。それを冷静に切り抜けた。その直後、暴投と柵越え本塁打で貴重な2点をもぎ取る。リリースも力のある速球が伸びた。3-0で見事勝利。次戦も大差で勝ち進む事が出来た。

さらに痺れる闘いは続く。

きっと今度は2点くらい先制される状況が出てくるぞ。いやもっと取られるかもしれない。そういう時こそ、これまで積み上げてきた経験と練習量がモノを言う。それを信じて全員でベンチもスタンドも一丸となって戦うのみだ。

落ち着いて、呼吸を整えて、石を積み上げるように決して焦らず、強引にいかず。

気持ちは熱く、心は冷静に。

最後は勝利への執念のあるものが勝つ。戦いの直前まで「中身」を磨け。

決戦は土曜日。もう待ちきれない。私も声で後押しする。頑張れ吉中ナイン!!